

## オリンピック開幕まで14日！！

オリンピックの開会式までちょうど2週間となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらず、東京都では公道での聖火リレーが中止になるなど、いろいろなところに影響が出ていますが、一流のアスリートの躍動する姿を見て、多くの感動を味わってほしいと思います。なお、本校で予定している7人制ラグビーの観戦については、練馬区の方針が決まり次第、詳細をご連絡いたします。

## 八王子車人形ワークショップ

文化庁が主催する「文化芸術による子供育成総合事業」の一環として、2年生を対象に人形浄瑠璃のワークショップ（体験型講演会）を、7月7日（水）に行いました。

今回は、NPO法人伝統芸能ネットワークのご協力のもと、グループに別れて【八王子車人形】と【義太夫節】の体験を行いました。初めて見る・聴く・操るものばかりでしたが、どのグループも主体的に取り組み、非常に貴重な体験をすることができました。なお、今回のワークショップで体験したことを、9月15日（水）に行われる本公演時に、全校生徒の前で発表することになっています。

### 【八王子車人形とは】

文政8年(1825年)、現在の埼玉県飯能市に生まれた初代西川古柳（にしかわこりゅう）によって、江戸時代末に考案されました。文楽系の三人遣いを、「ろくろ車」と呼ばれる車をおさめた箱に腰掛けて操る一人遣いに改良し、右手で人形の右手、左手で人形の左手と首、さらに指で目・口・眉まで動かします。人形が舞台に直接足をつけて演技が出来るため、独自の躍動感が生まれます。このような構造は世界でも類がないと言われており、平成8年には国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選定されています。

### 【生徒感想より】

- 義太夫節を体験しましたが、台詞の言い回しが難しいうえに、三味線の音と合わせなければいけないので、さらに難しかったです。
- 八王子車人形の操り方を教えてもらいましたが、人形の頭が重くて、人形を操るために挟んでいる足の指が痛くなりました。9月の本番では、自分が動くことで精一杯にならず、人形が人らしい動きになるよう頑張りたいです。
- 本物の波のように表現するために、腕を激しく振るのが大変でした。また、人形を操ったときは、リアルな身ぶりや目線、人形が泣く・笑う・怒るように見せることがとても難しかったです。今日体験した日本文化を家族にも伝えようと思います。

